

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 19 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2011～2014

課題番号：23251022

研究課題名(和文)「再帰的」思考と実践の多様性に関する人類学的研究

研究課題名(英文)An Anthropological Study on the Multiplicity of "Reflexive" Thoughts and Practices

研究代表者

大杉 高司 (OSUGI, TAKASHI)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：10298747

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 26,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「再帰的近代」の機制を明らかにするとともに、それとは異なる型の「再帰性」との比較をつうじて、前者を相対化し、複数の再帰性のあわれを同一水準で論じる方法を探究した。結果として、1)「再帰的近代」が、メタ・レベルとオブジェクト・レベルの峻別を想像可能にする諸装置に媒介されていること、2)水平的なネットワークにみとめられる再帰性においてはこの峻別を無効化する回帰的過程が顕著であること、3)いずれの再帰性の展開も、その働きかけの対象となる諸活動の文脈の「括りだし」を必要とし、しかもその「括りだし」が多様におこなわれること。

研究成果の概要(英文)：By elucidating the mechanism of “reflexive modernity” and comparing it with those of other modes of reflexivity, our project explored the way “reflexive modernity” can be relativized by, and symmetrically discussed with, multiple other manifestations. Our findings are: a) Modern reflexive thoughts and practices are mediated by artifactual devices which enable us to imagine the meta-level cut off from the object level; b) Reflexivity found in more lateral networks is characterized by recursive processes that nullify the difference of the two levels; c) Any operation of reflexivity requires, as a prerequisite, the “curving out” of the context of activities it tries to act upon, but does so differently.

研究分野：文化人類学

キーワード：文化人類学 再帰性 回帰性 比較 文脈 国際研究者交流 国際情報交換

1. 研究開始当初の背景

社会学者のギデンズらは、再帰性の高度な発達を、西洋近代の弁別的な特徴とみなしてきた。再帰性は、諸活動をそれが埋め込まれた文脈から離れて観察の対象とし、活動のありかたを更新していく制度化された過程とされる。1980年代から90年代の人類学のポストコロナル展開もまた、この再帰性のひとつのあらわれといえる。そこでは、学知の生産を可能にしてきた(ネオ)コロナルな力学に反省的視線が向けられ、人類学にはそこから自らを引き離して批判的に他者表象を鍛え直すことが求められた。しかしながらこの動きは、一方で、再帰的過程が展開する機制についての考察に欠き、他方で、人類学が研究対象とする人々や事象のうちで展開する再帰性の多型性を捉え損なってきた。

2. 研究の目的

1) 西洋近代型の「再帰性」が作動する条件と、その作動様態の把握。

「再帰性」は、純粋な思惟の所産としてあるのではなく、具体的な制度や装置に支えられた物事のやり方として展開している。それがどんな条件のもとで可能となり、人々の生活のなかでどのような活動として経験されているのかの詳細を把握する。(西洋近代型の再帰性を、以下では「再帰性」と表記。)

2) 水平的な関係における再帰性の再記述と分析。

これまで「再帰的」思考と実践は、諸活動の文脈から離脱した特異点からの、俯瞰的な眼差しと統制的な働きかけの所産であると理解されてきた。しかし、私たちを取り巻く諸関係の多くは、リゾーム(地下茎)状ないしネットワーク状にひろがっている。そこで水平的に交叉する視線が、どのように諸活動に組み込まれ、それぞれの活動を更新していくのかを水平的再帰性として再記述し、それが西洋近代型の「再帰性」の機制とどのような異同を有するのか分析する。

3) 特異点をめぐる想像力の多様性の把握と比較分析。

これまでの「再帰性」論では、諸活動を眼差し、そこに働きかけをする特異点を占めるのは、多くの場合、専門家集団を構成する人であった。しかし、特異点には人に外在する多様な観念(たとえば妖術や夢)や事物(貨幣や自然)が挿入されうる。これら特異点に位置付けられる観念や事物の相違が、諸活動の文脈を再編し個々の活動を方向づける想像形式の多様性と、どのように相関しているのかを比較分析により明らかにする。

3. 研究の方法

本研究の代表者、分担者、協力者は、キューバ、フランス、インドネシア、インド、ケ

ニア、宮城県、アメリカ合衆国、タイ、シンガポール、パプア・ニューギニア、ラオス、香港、イラン、モンゴル、スイス、コートディヴォワール、スイス、ソロモン諸島、ロシアにおいて、人類学的実地調査を実施し、個別具体的な事例の記述と分析を蓄積した。また、研究会合とシンポジウムを通じて、それらを相互比較して再帰性の多型的あらわれを把握し、従来の「再帰性」概念の問題点の把握と、あらたに提起される再帰性概念の重要性と有効性を精査した。

4. 研究成果

3回の研究会合、2回の公開国際シンポジウム開催をへて、本研究では以下の知見を獲得した。

1) 「再帰的」過程を展開させる物質的条件。

「再帰性」の展開は、活動を捉える各種指標や数値化を促す測定用具といった装置に強く依存していることが明らかになった。これら装置は、オブジェクト・レベルの活動とメタ・レベルからの眼差しや働きかけの区別を想像可能にする媒介物であり、その想像力がまた居住区、市場、水路などの配置などに物質的に実現されることで、「再帰性」の作動が強化されることが確認された。

2) Reflexivity から Recursivity へ。

再帰性の概念は、Reflexivity と Recursivity 双方の訳語として用いられるものの、水平的にひろがる関係性においては、Recursivity の語が含意する自己回帰的展開が顕著であることが明らかになった。またこの観点から従来「再帰性」と呼ばれてきた機制を振り返ると、メタ・レベルからの働きかけが、オブジェクト・レベルの文脈に取り込まれることでその外部性を維持できなくなる回帰的な局面があることが確認された。さらに、人類学による他者への眼差しと働きかけが、人類学が依拠する概念や分析枠組みの根源的変容を迫る回帰性を有することの意義が確認された。

3) 再帰性と文脈設定の表裏一体性。

「再帰性」の展開において特異点を占める人、観念、事物の違いによって、眼差しや働きかけの対象となる活動の文脈が多様に括りだされることが明らかになった。特異点をもたない水平的再帰性において、この括りだしは、隣接していたり潜在的に影響関係にあったりする諸活動や事物を、積極的に無関連化する活動によって達成されている。この無関連化の多様性の着目が、今後のポストANT研究の展開に重要な指針をあたえていることが確認された。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計44件)

大杉高司、序論「脱/文脈化」を思考する、一橋社会学、査読無、7巻別冊、2015、

3-15.

大杉高司、「キューバ革命の緑化」とマリノフスキーの子供たち 持続可能エコロジー農業の実験から、一橋社会学、査読無、7巻別冊、2015、215-242。

小田亮、アクチュアル人類学宣言！ 対称性の回復のために、社会人類学年報、査読有、vol. 40、2014、1-29。

真島一郎、いのちの翻訳 社会人類学のために、立命館言語文化研究、査読有、vol. 26(2)、2014、75-90。

中川理、国家の外の想像力、社会人類学年報、査読有、vol.40、2014、31-56。

深田淳太郎、ビックマン、ビジネスマン、強欲な老人とただ村に居た人 交換行為の道徳的評価をめぐる一試論、社会人類学年報、査読有、vol. 40、2014、57-82。

Mohacsi, Gergely, We Always Connect with Worlds: Japanese Drugs, Hungarian Bodies and the Effects of Comparison. Readings in Multicultural Innovation. 査読無、vol. 4, 2014, 257-272.

Morita, Asturo, Traveling Engineers, Machines and Comparisons: Intersecting Imaginations and Journeys in the Thai Local Engineering Industry. East Asian Science, Technology and Society, 査読有, vol. 7(2), 2014, 221-241.

Morita, Asturo, The Ethnographic Machine: Experimenting with Context and Comparison in Strathernian Ethnography, Science, Technology and Human Values, 査読有, vol. 39(2), 2014, 214-235.

小田亮、非対称化されたネットワークに亀裂をいれる、現代思想、査読無、vol.41(9)、2013、200-209。

深田淳太郎、貝殻交易ネットワークの地域誌：ビスマルク諸島とソロモン諸島地域観におけるムシロガイ交易の歴史的変遷と現状、国立民族学博物館研究報告、査読有、Vol. 38(3)、2013、377-420。

Mohacsi, Gergely, The Adiponectin Assemblage: An Anthropological Perspective on Pharmacogenomics in Japan. East Asian Science, Technology and Society, 査読有, vol. 7(2), 2013, 261-281.

春日直樹、生権力の外部：現代人類学をつうじて考える、思想、査読無、no. 1066、2013、227-243。

Nakagawa, Osamu, The Morality of Illegal Practice: French Farmers' Conceptions of Globalization. Senri Ethnological Studies, 査読有, vol. 81, 2013, 99-111.

Sekine, Yasumasa, Transnationality, Hope and 'Recombinant Locality': Knowledge as Capital and Resource.

South Asia Research, 査読有, vol. 32(1), 2012, 1-20.

Naoki, Kasuga, Vision that Ushers Humanity. NatureCulture, 査読無, vol. 1, 2012, 69-87.

Morita, Atsuro, Rethinking Technics and the Human: An Experimental Reading of Classic Texts on Technology. NatureCulture, 査読有, vol. 1, 2012, 40-58.

Mohacsi, Gergely, Entangled Knowledges: Three Modes of Articulating Differences in Clinical Trials. CARLS series of Advanced Study of Logic and Sensibility, 査読無, vol. 5, 2012, 232-244.

浜本満、妖術観念はどのようにしてリアリティを獲得するのか：抗妖術施術の分析を通じて、九州大学大学院教育学研究紀要、査読無、57(14)、2012、75 - 96。

浜本満、比較の使用と濫用：進化論における志向的語り口の問題点、共生社会学論叢、査読無、8巻、2012、71 - 97。

[学会発表](計39件)

Osugi, Takashi, Comparative Reflexivities: Opening Remarks. International Symposium: Comparative Reflexivities, November 15 2014, Hitotsubashi University (Kunitachi, Tokyo).

Osugi, Takashi, Infinitely Open but Strictly Closed. International Symposium: Comparative Reflexivities, November 15 2014, Hitotsubashi University (Kunitachi, Tokyo).

Yurchak, Alexei, Bodies of Lenin: The Reflexive Science of Communist Sovereignty. International Symposium: Comparative Reflexivities, November 15 2014, Hitotsubashi University (Kunitachi, Tokyo) Japan.

Holbraad, Martin, Transcendental Reflexivity. International Symposium: Comparative Reflexivities. November 15 2014, Hitotsubashi University (Kunitachi, Tokyo).

真島一郎、人類の社会性とその進化 共在様態の構造と非構造、日本人類学会第68回研究大会、2014年11月3日、アクトシティ浜松(静岡県・浜松市)

Kasuga, Naoki, Between Two Truth: Time in Physics and Fiji. JASCA 50th Anniversary Conference+IUAES Inter-Congress, May 17 2014 Makuhari Messe (Chiba, Chiba).

Sekine, Yasumasa, The Challenge of Street Anthropology: Hindu Temple Construction as Street-edge Phenomena

Under Globalization. JASCA 50th Anniversary Conference +IUAES Inter-Congress, May 16 2014 Makuhari Messe (Chiba, Chiba).
Mohacsi Gergely, Japan In/Out of Asia: Experimenting with Alterity and Inclusion. JASCA 50th Anniversary Conference+IUAES Inter-Congress, May 14 2014 Makuhari Messe (Chiba, Chiba).
Okazaki, Akira, Dreaming, madness and the human sciences: a prehistory of anthropology. JASCA 50th Anniversary Conference+IUAES Inter-Congress, May 14 2014 Makuhari Messe (Chiba, Chiba).
真島一郎、歴史・社会科学の翻訳、日仏会館創立 90 周年記念国際シンポジウム、2014 年 4 月 20 日、日仏会館（東京都・渋谷区）。
大杉高司、ブラックボックスとエコ社会主義の再帰性：キューバ持続可能性農業の実験から、公開国際シンポジウム「複数の再帰性」、2014 年 1 月 11 日、一橋大学（東京都・国立市）。
久保明教、ネットワークと再帰性：大きな切断と小さな切断の狭間で、公開国際シンポジウム「複数の再帰性」、2014 年 1 月 11 日、一橋大学（東京都・国立市）。
Casper, Bruun Jensen, Pipe Dreams: Infrastructures and Infra-Reflexivity in Phnom Penh, 公開国際シンポジウム「複数の再帰性」、2014 年 1 月 11 日、一橋大学（東京都・国立市）。
Okazaki, Akira, Broken Trust and Mutual Alienation in Three Emerging Areas of Super-Diversity: Post Fukushima Japan, Asudan's Borderlands and East Africa. IUAES, August 5 2013 University of Manchester, Manchester(UK).
関根康正、殲滅されるべきは何なのか、カーストか、ジャーティか、ヴァルナか、あるいは不可触性か？、KINDAS セミナー、2013 年 7 月 12 日、京都大学（京都府・京都市）。
中川理、市場文化と遅れ：フランス青果市場の事例、日本文化人類学会第 46 回大会、2012 年 6 月 24 日、広島大学（広島県・広島市）。
Morita, Asturo, Ontological Politics of the Flood, Society for Social Studies of Science/European Association of Studies of Science and Technology, October 18 2012, Copenhagen Business School, Copenhagen (Denmark).
深田淳太郎、ソロモン諸島西部ブーゲンビル島ラバウルの貝殻輸出入ネットワーク、日本文化人類学会第 46 回大会、2012 年 6 月 23 日、広島大学（広島県・広島市）。

〔図書〕(計 19 件)

Morita, Atsuro, Penny Harvey and Casper Bruun Jensen (eds.), Routledge, Infrastructures and Social Complexity: A Routledge Companion. In press.

大杉高司編、一橋大学社会学研究科、「脱／文脈化」を思考する、『一橋社会科学』特集号、2015 年、242 頁(1-15 頁,215-242 頁)。

浜本満、九州大学出版会、信念の呪縛：ケニア海岸地方ドゥルマ社会における妖術の民族誌、2014 年、534 頁。

Mohacsi Gergely (ed.), Osaka University, Ecologies of Care: Innovations through Technologies, Collective and the Senses. 2014, 271 pages(3-7, 257-271).

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大杉 高司 (OSUGI, TAKASHI)
一橋大学・大学院社会学研究科・教授
研究者番号：10298747

(2) 研究分担者

春日 直樹 (KASUGA, NAOKI)
一橋大学・大学院社会学研究科・教授
研究者番号：60142668

岡崎 彰 (OKAZAKI, AKIRA)
一橋大学・大学院社会学研究科・特任教授
研究者番号：00409971

浜本 満 (HAMAMOTO, MITSURU)
九州大学・人間環境学研究院・教授
研究者番号：40156419

小田 亮 (ODA, MAKOTO)
首都大学東京・人文科学研究科・教授
研究者番号：50214143

関根 康正 (SEKINE, YASUMASA)
関西学院大学・社会学部・教授
研究者番号：40108197

真島 一郎 (MAGIMA, ICHIRO)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授
研究者番号：10251563

中川 理 (NAKAGAWA, OSAMU)
立教大学・異文化コミュニケーション学部・准教授
研究者番号：30402986

森田 敦郎 (MORITA, ATSURO)
大阪大学・人間科学研究科・准教授
研究者番号：20436596

深田 淳太郎 (FUKADA, JUNTARO)
中央学院大学・法学部・講師
研究者番号：70643104

モハーチ ゲルゲイ (MOHACSI, GERGELY)
大阪大学・人間科学研究科・招へい研究員
研究者番号：90587672